

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0191000231), 法人名 (社会福祉法人 北海道友愛福祉会), 事業所名 (グループホーム ゆうあい ひまわりユニット), 所在地 (江別市豊幌美咲町23-14), 自己評価作成日 (平成29年8月4日), 評価結果市町村受理日 (平成29年9月14日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者一人ひとりが自分らしく生活を送れるよう会議や日常的に話し合いをしている。
・施設併設の管理栄養士による食事提供の為、栄養面や豊富なメニューが揃っている。
・調理が少ない事で入居者様との時間が多く持つことができ、個別に関わる時間がある。
・中央に大きな交流ホールがある為、行事やボランティア活動が容易に可能。
・花壇や畑が完備され入居者様が容易的に利用できるようになっている。
・近くに公園があり、休日は子供達が楽しく笑う声が聞こえてくる。
・めずらしい動物が裏庭に現れる事がある。
・住宅街に立地しているが緑に囲まれて日中でも夜間帯でも静かな環境で過ごす事ができる

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: http://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2016_02_2_kani=true&JigvosvoCd=0191000231-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成29年8月21日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は新旧の住居が混在する住宅地にあり、駅やコンビニも指間の距離であり利便性の高い地域に立地している。敷地内には母体法人が運営する視力障害者の養護老人ホーム等関連施設が隣接し、イベントや災害訓練等は同時に実施するなど密接した協力体制が構築されている。事業所の建物は平屋建てでゆったりと造られており、地域交流フロアを中心に各ユニットが右左に展開された構造となっている。当事業所の優れた点は、法人が理念とする「和顔愛語」を実践する取り組みを第一に挙げたい。その中心となる「一人で困らない！困らせない！HELP魂！」は、介護はチームプレイであることを全面的に打ち出し、介護される人も介護する人も幸せになることを目指している。建物の有効活用も特筆される。中央部の地域交流フロアは事業所のイベントのみならず、認知症カフェの場として活用されている。地域交流も当事業所が力を入れている取り組みであり、長期間にわたり法人が培ってきた地域住民との協力関係もしっかりと維持継続している。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度より、地域密着型サービスの意義と理念の学習会を実施している。実践に向けて取り組みをしている。	「和顔愛語」を理念の中心に据え事務室や玄關部に掲げ、また普段着用のTシャツにプリントし日々実践に繋がるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域との繋がりが持てるよう買い物や散歩、地域の行事に参加している。認知症カフェの実施により、地域の方と交流する機会が増えている。	地域でのお祭りや行事に参加し、また事業所の催し物に来てもらうなど、地域との交流に取り組み、今年度からは認知症カフェをオープンし、地域の活性に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェで認知症の理解や介護相談を実施し、福祉事業所として、地域の人々に向けて活かせる場を提供している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	事業所の取り組みや施設状況、事業所の在り方などを会議を通して報告し、取り入れられる意見はサービス向上に活かしている。	推進会議は各層の参加を得ながら定期的開催しており、内容も介護一般から事故、ヒヤリハットも積極的に報告し、サービス向上に臨んでいる。	推進会議は定期的開催され、報告内容も活動状況報告としてきめ細かく行っており機能を果たしているが、今後は利用者宅を含め関係者に議事録の配布を行い、より一層の充実を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月に一度、事業所の現状を報告し伝えている。その他、市町村担当者と積極的に取り組みが実施されていない。	行政主催の各種会議には出席し、情報交換を行っており、介護保険の更新や区分変更時も窓口へ赴き、各種の相談等により関係性の維持に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄關の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	指定基準の身体拘束禁止行為を理解し、身体拘束ゼロ委員会、研修会に参加する等、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人として拘束や抑制のない介護に取り組んでおり、拘束ゼロ委員会を中心に研修を実施し、拘束も抑制もないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修を通し、学ぶことができています。また、ユニット会議時、就業中の行動が虐待に繋がっていないか検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の学習の機会は少ない。理念にその人らしい生活ができるよう日々、話し合い、会議を通し、支援につなげている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に本人・家族面談を行い、契約等の説明は補足を入れながらわかりやすく伝達している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望があれば、会議を通して検討し、可能であれば、運営に反映している。	毎月お便りを発行し、利用者本人の日々の生活を伝えることで意見や要望を収集し、検討を加えながら運営に反映するように努めている。	理念の実践を含め本人本位の介護サービスに取り組んでおり敬意を表したい。今後はアンケート等の調査方法を含め、介護サービス満足度調査を行う中から、より上質なサービスに繋がるように期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム職員全体会議を毎月開催し、施設長・管理者が職員の意見・提案を聞く機会を設け、反映させている。	人事考課制度を取り入れており、職員との面談は定期的に行われ、意見の取り込み、集約の機会となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年3回の人事考課面談を通じて、職員個々の努力や向上心を把握し、職員環境条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内外のケアに関する学習会に参加機会を確保する他、ケアの症例研究を奨励支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内グループホームの連絡会(あおいの会)に加入し、ネットワークづくりやサービスの質向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	おやつの時間や外気浴の時、そばで寄り添い傾聴している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に普段の様子などを伝達している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、本人や家族等の要望や現状をもとに必要なケアをみきわめ、アセスメントを活用し対応している。また、気づいた点を職員同士で情報を共有し、ケアサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事活動など体調をみながら実施している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コミュニケーションを密にして絆作りに努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の面会、外食や美容室、地元へ外出する等、家族の協力をもらいながら、関係が途切れないように努めている。	市内でも限定された地域であり、周辺からの利用者も多く、地縁の大切さも見られ、関係性が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その都度、ご利用者の状況に合わせて、関わりを持てる時間や空間を設定している。職員が間に入り、穏やかに時をすごせるよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなったご利用者のご家族が時々、他のご利用者やご家族に会いに来られている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望、意向に添えるよう努めている。都度、ご本人の思いを確認している。	利用者に寄り添い、得た情報を職員で共有し、各人それぞれが落ち着いて楽しみのある生活になるように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴を大切にしながら関わりをもつよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人本位の生活を大切にしているが少しずつできなくなってきている方が増えている。また、出来るだけ、穏やかに過ごして頂けるよう努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、随時、見直しが必要と思われる時にはカンファレンスを行っている。	介護計画、短期目標への実践を毎日記録に落とし、現状に見合った計画の達成、進捗度の把握に努めている。突発的な事故や病変については即時計画を変更し、本人の現状に即した介護計画になるよう取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録をしっかりと記入し、改善点がある時は都度、話し合いを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者やご家族の要望に添って、サービス内容の見直しを行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ある程度の日課に添って、楽しい時間を過ごして頂けるよう無理なく活動参加を促している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者がかかっていた医療を継続できるよう支援をしているが変更した方がよいと感じた時はご家族にしっかり話し、納得して頂けるようにしている。	基本的には本人、家族の意向で主治医が決まるが、看取りや重度期の対応は協力医が望ましく、状況に応じて説明し変更となる場合もあるが、いかなる場合でも適切な医療体制となるように臨んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は連携をとり、看護職員や訪問看護の方に利用者の情報を伝え、より良い指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者と病院関係者・事業所間でカンファレンスを行い、退院時では良い関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病院・家族・職員と連携をとり、終末期の在り方について取り組んでいる	必要時に看取りの指針を文書で説明し同意書を記載してもらっている。また状況に応じて医療・家族・事業所で話し合い、本人や家族の望まれる方向で介護できるように、職員一同で取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応が出来るように法人内や事業所内の研修を定期的に行い、知識を得ている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震に備え、避難訓練を定期的に行い、身に付ける事が出来ている。	年に4回、敷地内の関連施設とともに避難訓練を実施している。訓練には地域の住民や地区の消防団の協力も仰ぎ、突発的な災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フロア会議等で接遇や言葉かけの話し合いをしている。	名前の呼び方はさんを基本とし、家族の要望も検討しながら、尊厳に欠けるようなことが無い様に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の希望に合わせた訪問理美容や外出し、出来る限り、自己決定できるよう支援をしている。また、自己決定が難しい方は選択肢を用いながら対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方のペースや要望に合わせて、日々の暮らしを支援している。個々の希望に出来る限り添えるようお話を聞きながら対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	要望のある方に意思を聞きながら一緒に服選びをしている。衣類が古くなったら、ご家族と相談しながら補充をしている。特に通院やイベント外出時はお洒落をするよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けを手伝って頂いている。おやつ作りや行事食の時は調理を行っている。	主だった料理は敷地内の関連施設で作られ運ばれてくるためその分、職員の負担は軽くなり、ケアの充実に集中できる体制となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お好みの物をご家族に用意してもらい、水分摂取量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には口腔ケアの声掛けと確認、支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間ごとの声掛けやトイレ誘導を行っている。	各人の排泄パターンを理解共有し、排泄サインを見逃さずにトイレへ誘導している。室内のトイレ使用のため、プライバシーの確保も保たれ、無理のない排泄になるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、体を動かす時間を設けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調に合わせ、入浴時間の変更やご本人の希望で次の日へ変更もやっている。	入浴は週に2回以上を基本とし、希望により変更や追加等、臨機応変に対応している。できるだけ同性介護となるように工夫、考慮している。また入浴拒否者には無理強いすることなく、時間や人に変化をつけながら支援を続けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれに合わせた休息時間を取って頂いている。(ご本人の希望によりベッドやソファなど)		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用を理解し現状の症状に沿って上司や看護師と連携し都度対応できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った役割や作品作り、外でのお茶タイムなど楽しめる時間をもてるよう支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日など、ご本人の体調に配慮して外出の支援を行っている。ご家族様も時々、ドライブへ連れて行ってくださっている。	季節ごとにドライブに出かける他に、事業所を取り囲むように散在する庭や畑の花を見たり、野菜の成長を楽しんだり、閉じこもらない介護になるよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族の希望により、お金を持っているが使う機会が余りない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	以前はご利用者の電話の訴えがあり、支援していたが現在は手紙・電話を希望する人はいない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部にソファを設置し食後、ゆったり過ごせるようにしている。また、壁面飾りで四季感を出すよう工夫をしている。	温度調節が行き届いた食堂や居間の共用部は窓も大きく据えられ、採光もよく、各人がゆったりと過ごせるような工夫が見られる。また壁の飾りも華美を避け、落ちつける雰囲気を感じられる造りとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大ホールもあり、ソファも3人掛け、1人掛けなど、色々と設置し対応をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具・寝具類はご家族と相談して設置しており、居室でゆっくりすごせるようソファや椅子も置いている。	居室内は使い慣れた家具や小物類が置かれており、自分の居場所として心地よく過ごせるよう、工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを使用した歩行、運動など、安全に生活できよう工夫している。		